

令和8年度 第1回住吉区地域福祉専門会議

令和8年6月4日（木）

【南福祉課長代理】 それでは、定刻になりましたので、令和8年度第1回地域福祉専門会議を開催いたします。

本日は、お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます住吉区役所福祉課課長代理の南と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、橘住吉区長からご挨拶申しあげます。お願いします。

【橘区長】 皆様、こんばんは。

委員の皆様並びにアドバイザーの小野先生におかれましては、ご多用のところ、また、夜の遅い時間から今年度最初の専門会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、平素は区政の推進に温かいご理解とご協力、そしてご支援を賜っておりますことを、この場をお借りいたしまして厚くお礼申しあげます。

さて、今年度でございますが、地域福祉ビジョンの改訂作業の年度となっております。去る5月11日に開催をさせていただきました小委員会におきましても、委員の皆様から改訂に当たって数多くのご意見を頂戴したところでございます。誠にありがとうございます。

本日議題案件の「地域福祉ビジョンVer. 4.0」（素案）につきましては、Ver. 3.0、現行のビジョンでございますが、こちらに掲げております基本理念等を継承しつつ、この間、各種会議体から抽出いたしました現場課題を基に、小委員会における委員の皆様方のご議論を踏まえながら作成させていただいたものでございます。

また、本日におきましてはお示しすることができませんでしたが、ビジョンの具体的な取り組みを示すアクションプランにつきましても、現在、作業を進めているところでございます。次回の小委員会ないしは当会議でお示しをさせていただきたいというふうに考えてございます。

素案につきましては、報告案件の後、担当職員より説明をさせていただきますので、委員の皆様方には忌憚のないご意見を賜りたいと考えてございます。

本日も最後までどうぞよろしくお願いいたします。

【南福祉課長代理】 それでは、本日まで出席の皆さんのご紹介につきましては、時間の関係上、割愛させていただきますので、お配りしております名簿と座席表をご確認いただければと思います。

本日は、アドバイザーとして桃山学院大学の小野教授にもご参加いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、上原委員におかれましては、本日、所用によりご欠席です。また、濱本委員におかれましては、少し遅れてのご出席となります。よろしくお願いいたします。

会議に入る前に配付資料の確認をさせていただきます。

まず初めに次第です。名簿と座席表もセットしております。続いて、資料番号1「これまでの取り組みと見えてきた課題について」、A4で、真ん中あたりの上に「高齢者支援」と書かれた資料となります。続きまして、資料番号2「住吉区地域見守り支援システム進捗状況について」、続いて、資料番号3「地域福祉活動に関するアンケートについて」、続きまして、資料番号4「地域座談会の実施結果について」、続いて、資料番号5「住吉区地域福祉ビジョン改訂 小委員会 議事録」、続いて、資料番号6「住吉区地域福祉ビジョン Ver. 4.0 (素案)」、以上、7種類のセットとしております。資料が不足していらっしゃる方はいらっしゃいませんか。

それでは、会議を始めさせていただきますが、皆様方にお願いがございます。議事録作成のため、会議中の録音につきましてご了承くださいますようお願いいたします。また、ご発言いただく際にはマイクをご使用の上、お名前の後にご意見をいただきますよう併せてお願いいたします。

それでは、案件に入らせていただきますので、これよりの進行につきましては宮川委員長にお任せしたいと思います。宮川委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

【宮川委員長】 今年度から委員長をさせていただきます宮川と申します。

会議のスムーズな進行にご協力いただきますようお願いいたします。

それでは、お手元の次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。

まず初めに、令和7年度の報告として、(1) これまでの取り組みと見えてきた課題について、(2) 住吉区地域見守り支援システムの進捗状況について、(3) 地域福祉活動に関するアンケートについて、(4) 地域座談会の実施結果についてと順に報告を行います。ご質問やご意見につきましては全ての報告が終わった後に承りますので、よろしくお願いいたします。

それでは、報告の（１）から（４）について、事務局から説明よろしく申し上げます。

【津村地域福祉担当課長代理】 皆さん、こんばんは。福祉課地域福祉担当課長代理の津村といたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、着座にてご説明させていただきます。

まず、報告に入る前になんですけども、資料番号６の最後のページの36ページをご覧くださいただけますでしょうか。こちらになっています。このビジョンVer. 4.0の一番裏のページの下段ですね。大丈夫でしょうか。

これはいろいろな支援機関や各種会議体などを階層ごとに分類しており、左にある地域から右へと順にボトムアップし、最終的に区政へつなげていくというイメージ図となっています。

一番右側に区政会議やこの地域福祉専門会議を位置づけており、昨年度はこの１つ前の階層、図でいうと区政会議などのもう１つ左側の下から４段目にある地域包括支援センター運営協議会についてご報告をしておりました。

しかしながら、高齢者だけでなく、子どもや障がい者についても現状報告が必要というお声をいただいておりますので、地域包括支援センター運営協議会と同じ階層にある各種会議体での取り組みなどを高齢者への支援、障がい者への支援、子どもへの支援、複合的な課題を抱える世帯への支援の４つに分類してご報告させていただきたいと思っております。

課題につきましては、皆さんもご存じのとおり、支援対象者が異なっても抱える課題などは共通する部分が多く、繰り返しになってしまう部分もありますが、よろしくお願ひいたします。

それでは、資料番号１をご覧くださいただけますでしょうか。

まずは、高齢者支援について、読み上げてご報告とさせていただきます。

これまでの取り組みといたしまして、住吉区では地域と連携して高齢者のつどいの場となる百歳体操やふれあい喫茶、食事サービスなど顔の見える関係づくりの取り組みをはじめ、住み慣れた地域で暮らし続けるため本人を中心とした関係機関の連携を進めてまいりました。また、支援が必要な方には見守り活動の実施やあんしんサポート事業、成年後見制度の活用などにも取り組んでまいりました。

各会議体で見えてきた課題といたしまして、①地域活動への参加が少なく顔の見える関係づくりが難しい。②支援を望まない高齢者との関係づくりが難しい。③支援者の高齢化

により見守り活動など担い手が不足している。④認知症高齢者の金銭管理をはじめとした各種制度を利用するには金銭的な負担や手続きの煩雑さなど利用しづらい。

見えてきた課題の中で、④につきましては、区で取り組める部分と大阪市の関係局と連携が必要な部分を切り分けて進めてまいりたいと考えております。

続きまして、裏面をご覧ください。

障がい者支援について、これまでの取り組みといたしましては、住吉区では自立支援協議会を設置し、障がい者基幹相談支援センターが主体的に参画し各部会において研修会や勉強会、グループワークなどを実施することで、それぞれの相談窓口で障がい者が地域で安心して暮らせるよう支援してまいりました。

また社会的入院や触法障がいの地域移行支援については、地域、施設の理解・協力を得ながら取り組んでまいりました。

各会議体で見えてきた課題といたしまして、①相談窓口の認知度が低く支援につなげることが難しい。②地域で安心して暮らしていける環境づくりにはネットワークが不足している。③地域移行支援にあたって本人の事前情報が少なく短期間での円滑な移行が難しい。

こちらも、③については、大阪市関係局と連携を図り、進めてまいります。

次のページに行きまして、こどもへの支援について。

これまでの取り組みといたしましては、住吉区では保育所園・幼稚園、小中学校、高校等の所属と連携し、児童の個別の発達を支援するためのデイサービスや保護者の負担を軽減するための福祉サービスの利用等を勧めるとともに、虐待リスクなどに応じた頻度で支援対象児童等の状況確認を行い、関係機関が連携を図り支援の方向性を共有しながら、継続的に支援対象児童等を見守ってきました。また、関係機関を掲載したハンドブックの作成や見守りを行う支援者への研修会などを開催してまいりました。

さらに、不登校やひきこもりで悩んでいる子ども・若者の福祉や保健、教育、就労など様々な相談事業をはじめ、居場所づくり、外出支援の実施や事業の認知度を高めるためのフォーラムや研修会などを開催してまいりました。

各会議体で見えてきた課題といたしまして、①所属や関係機関からのかかわりを拒否する家庭や支援を自己中断する方などは継続支援が難しい。②外国人世帯で習慣の違いなどから児童虐待となることがあり、日本語でのコミュニケーションがうまくいかないケースなど支援が難しい。③就労支援や居場所づくりなどに必要な受け入れ施設が不足している。

また裏面に行きまして、最後に複合的な支援についてですが。

ちょっと分かりにくい表現となっていて申し訳ないのですが、いわゆる8050問題やヤングケアラーなど、1つの相談支援機関だけでは解決できない複合的な課題を抱えた人や世帯に対しての支援を、住吉区では「総合的な支援調整の場」を開催し、様々な分野の相談支援機関や地域の関係者などが一堂に会し、世帯全体の支援方針を検討・共有するとともに、支援にあたっての役割分担を明確にするなどの取り組みを進めてまいりました。また、見守り相談室のCSWとの連携により、自ら相談できず、地域で埋もれている要援護者を発見し、必要に応じ「つながる場」を活用し適切な支援に取り組んでまいりました。

各会議体で見えてきた課題といたしまして、①地域活動への参加が少なく顔の見える関係づくりが難しい。②支援を望まない世帯等や病識のない人との関係づくりが難しい。③相談窓口の認知度が低く支援につなげることが難しい。④認知症高齢者の金銭管理をはじめとした各種制度を利用するには金銭的な負担や手続きの煩雑さなど利用しづらい。

こちらも、④については、大阪市関係局と連携を図り、進めてまいりたいと考えております。

報告は以上になります。

【松村福祉課担当係長】 福祉課の松村です。よろしくお願いいたします。

座って説明させていただきます。

住吉区地域見守り支援システム進捗状況についてご報告いたします。

資料2をご覧ください。

3月に、1月末時点で作成した追加台帳を各地域に提供させていただきました。提供後の各地域の登録者数が①の列のところですか。②の列が2月以降に判明した転居・死亡等の削除者数、③の列が2月以降追加となり10月には各地域に新たに提供される予定の方々の数です。①列から②列を引き③列を加えたものが、表の一番右、4列にある現在の台帳登録者数となります。

今年度より、この報告については第1回の専門会議でのみ報告することとなり、年1回の報告となったことから、数の集計につきましては3月31日現在で統一することとしました。

要援護者支援台帳については、新たに登録対象となった方へ、登録するかどうかを確認するための意向確認書を昨年度から未回答者に対し再度送付し、より多くの回答を得るための工夫を行っています。また、今年度は、見守り相談室、地域課、福祉課が協力して各地域支援事務所を訪問し、改めて地域の現状把握を行い、連携強化を図る取り組みを進め

ています。地域ごとの実情を知ることで課題や強みを共有し、各地域に対してどのような協働の在り方が必要かを検討し、住吉区地域見守り支援システムがより一層充実した事業となるよう推進してまいります。

続きまして、資料3をご覧ください。

昨年度実施した地域福祉活動に関するアンケートについての結果を報告します。

このアンケートは、地域福祉活動に参加しておられる方に対して参加動機や活動によって得られる充実感を調査することで、まだ活動に参加されていない方への動機づけにつなげることを目的として行い、130名の活動者の方から回答をいただきました。

まず、アンケート結果の2枚目のほうに行きます。

2枚目の質問⑩からになりますが、130名のうち、男性は4名、女性は125名でした。

年齢については60歳代以上に集中しており、地域福祉活動の主な担い手が60歳以上の女性であることが分かります。

また、活動年数は5年以上が7割以上を占めており、特定の方が長年地域福祉活動に携わっていただいている傾向にあると言えます。

以前からどの地域でも課題となっている活動者の高齢化・固定化、新たな担い手の不足などにより、活動継続にリスクがある状況がこの結果からも読み取れます。

次に、アンケート結果の1枚目に戻ります。

まず、質問①の参加されている活動については、見守り活動をはじめ、子育てサロンやふれあい喫茶、高齢者食事サービスなど、地域の定期的な活動に複数参加されています。

質問②の参加頻度は、「月に数回」が最も多いですが、「週に数回」「ほぼ毎日」と回答された方も30名おられました。

質問③の活動時間の確保については、「時間帯を決めて習慣化している」が最も多く、ほかの項目についても満遍なく回答がありました。

以上のことから、時間帯が決まった定期的な活動に月数回であれば参加しやすいのではないかと読み取れる一方で、地域福祉活動の時間をつくるために家族と調整したり予定を空けたりなど負担感も読み取れること、また、特定のメンバーに負担が集中していることは、メンバーの離脱時の影響が大きくなるというリスクをはらんだ状況と言えます。

質問④の活動参加のきっかけについては、「友人・知人に誘われたから」「地域や社会に貢献したかったから」が多く、社会貢献をしたいという動機と友人・知人というきっかけの2つが結びつくことが担い手を増やすポイントだと考えられます。

また、「活動場所が近所にあった」「時間に余裕ができた」という環境的な要因のほかに、「人との関わりを持ちたかった」「健康に良さそう」など、地域福祉活動は、身近なところで社会貢献をしながら人との関わりを持つことで自身の人生や生活を豊かにするという効果が期待されていることが分かります。

この質問④の傾向が次の質問⑤、⑥の結果でも読み取れ、多くの方が、先ほど申しあげた社会貢献をしながら自身の人生を豊かにするという効果を実感し、活動を通じて仲間へ感謝されたことや、協力して取り組めたことによる充実感や喜び、自己肯定感などを得られていると考えられます。

次に、質問⑦については、「地域のイベントで紹介する」と「知人や友人へ紹介してもらう」という口コミ的な手法が多いですが、そのほかの項目にも満遍なく回答があり、新たな担い手を増やすにはあらゆる発信の方法を活用すべきと考えていると思われます。

質問⑧の新たな活動者を増やすための効果的なアプローチについては、「現メンバーによる口コミや紹介」「活動の魅力や意義を伝える」といった、まずは参加の入り口での工夫が必要であるということと、「参加しやすい環境や雰囲気づくり」「新規参加者への丁寧なサポート」といった参加後のフォロー体制が必要であるという回答が得られました。

質問⑨の大学生等からの支援については、「協力までは考えていない」が3分の2を占め、消極的な結果となりました。

この回答の理由を知るには、さらに質問を重ねる必要がありますが、受入体制の問題や、そもそも大学生との接点をどう持つのかという問題もあると推察されます。

次の質問⑩は、大学生等に協力してほしいと回答した方に対して、何を協力してほしいかを聞いていますが、「企画・運営に携わって欲しい」「活動内容に意見が欲しい」の回答が多く、地域福祉活動への新たなアイデアが出ることを期待していると考えられます。

最後に、アンケートの結果から住吉区の地域福祉活動について言えることを3つまとめさせていただきますと、1つは、活動者の属性には偏りがあり、長期従事者への依存が強い状況があること、2つ目は、参加のきっかけは、社会貢献への関心と友人・知人の誘いが強く作用していることのほかに、人との関わりを持ちたいという気持ちがあること、そして、3つ目は、活動には喜びや充実感があり、活動者自身の心身の健康によい影響を与えていることであると報告いたします。

以上です。

では、次に、松尾局長から報告4をお願いいたします。

【松尾社会福祉協議会事務局長】 社協の松尾でございます。私のほうから、資料4、住吉区における地域座談会や住民交流会の取り組みということで、直近3年ほどの開催支援の状況につきまして簡単にご報告をさせていただきたいと思っております。

まず、各地域で座談会を開催支援させていただいておりますけれども、多くの地域では、1回目、初めて開催するときには小野先生のご支援もいただいて、増進型福祉の考え方、マイナスをゼロにする福祉というよりかは、マイナスをプラスに発想していくような「幸福（しあわせ）探し、幸福（しあわせ）づくり」ということをキーワードに捉まえて、一緒に楽しく考えていきたいと思いますというようなところを導入にして始まっているところがございます。

この資料の1枚目にありますのは、左側ですけれども、山之内地域はこの間、年に1回定期的な開催が定着をしてきているというような状況がある中で、話し合われたことが話合いで終わらずに、いろいろなイベントやネットワークの広がりといったことに形になってつながってきているというようなところがございます。

あと、右手のほう、長居地域ではコロナ禍から前から地域座談会の開催をなさっておられまして、そのときには座談会がきっかけになって地域の広報紙も誕生するというようなこともございましたし、一昨年度、コロナ禍が明けて久しぶりに、少し時間は空いたけれどもということでしたけれども開催に至りまして、地域のそれぞれの福祉活動の現状はどうなのかというようなことが話し合われています。

また、下の住吉地域も一昨年度と昨年度2回開催されていますけれども、住吉地域は住吉区内でも27町会ある地域の広さも人口も一番大きくて広い地域になっておりますことから、本当に地域の方々が平場で話す場というのがなかなか持てなかったというようなところで、本当にふだんの活動をどうしてるのというようなことから話し合う機会を持たれています。

今日もお昼からは地区社協会長会がありましたのですけれども、住吉地域の上村会長も大変有意義な座談会だというようなことでおっしゃっていただきましたが、そういうふうに言ってくださいという打合せはなくおっしゃっておられたので、本心からおっしゃっていただけたのかなというふうに思いますが。住吉地域は、地域の方からこれはぜひ続けていきたいということで、また今年度も2月、3月、振り返って、次につながる機会を持ちたいねと、また、今日ここにきてない人をみんな呼んできてねというような声かけを地域の方がしてくださったりとかということで広がりを見せています。

後ろのページに行きますと、南住吉地域では、地域のどんな方が参加してるのということがございますのですけども、町会女性部の方、民生委員の方、保護司の方、青少年指導員、PTA、老人クラブの方々、様々な地域活動なさっておられる方々と、南住吉の場合は、そこに福祉の専門職、見守りのCSW、包括の職員含めて専門職も入らせていただいて、地域の方と専門職の対話の機会になっているのが特徴ですし、話し合う中でワークショップ的なことを常に取り入れながら一緒に考えるというようなことが鍵になって、広がり継続されています。

また、清水丘でも同様のネットワーク交流会が開かれていまして、毎回清水丘では高齢者のことを中心に話合いがスタート、包括が中心になって開催支援しているところもありますので高齢者の話題からスタートするんですけども、もう高齢者だけの話じゃないよね、やっぱりいろんな世代がつながっていくことが大事だよねというような話につながるものがしばしばありまして、この間は子ども食堂のメンバーの方も参加をしてくださったり、そういう機会がございました。

荻田南でも、一昨年度、昨年度、「みんなで話そう会」というネーミングで機会を持たれています。このときには2回ともPTAの方も続けてご参加してくださっていらして、やっぱり子どもたちや現役のお父さん・お母さんたちが地域にどうつながれるかという、そういうチャンネルをやっぱりどうやってつくっていけるかということに力を注いでいこうというようなことで、じゃ、具体的にどうしようかといったところを今地域のほうでも模索されておられます。

先ほど出てきました山之内地域で、右上のほうですけども、地域の座談会から派生をしまして、山之内地域は大変福祉施設や介護の事業所が多い地域でもあるんですけども、この地域の中の福祉施設や介護の事業者さんとのネットワークを、以前は大変地域との交流が活発だった時代があるということで、そういう時代をむしろ今現代風に復活させていけないかということも座談会の中で話になって、それだったら顔合わせできる機会を続けていきたいと思いますということで、交流会をかなり結構な頻度で続けて持たれています。それが去年も秋には山之内しあわせスマイルデイということで、一緒にイベントをやりましょうというようなところで具体的な形で発展していているようなところもございます。

最後、3枚目ですけども、話合いからどんなことが生まれているのかということで、東粉浜では、話合いの企画から生まれたハロウィンイベント、今年で4回目でしょうか。本当に地域の子どもさんから高齢者の方まで、現役の方まで、たくさんの方が本当に毎年

盛り上がっていて、どこまで行くのかなというように我々思ってしまうぐらいすごくもう定着して、皆様が楽しみにされているイベントとして定着をされています。

また、清水丘や荻田地域では、少しテーマを絞って、見守り活動のことをしっかりみんな話したいなというようなことで、少しテーマ型で地域座談会をやってみようというような試みもあって、こちらのほうも、やっぱりこういうみんなで考える場、話し合っで考える場ってすごく大事だということを改めてやって気がついたというようなことをおっしゃっていただいたりもしています。

一番下は、地域座談会に参加された方からのアンケートの一部、ご紹介をさせていただいています。これは以前の専門会議でもご報告させていただいていますので、詳細は控えさせていただきますが、このような状況で開催支援をさせていただいています。

今年度は、地域座談会のような形で地域で場を持たれてない地域は1地域あります。そちらと、あと、コロナ禍前には地域座談会を開かれていて、コロナ禍が明けてからそういう場がなかなか持てないという地域が1地域ありますので、そちらの地域には我々一歩二歩踏み込んで、ご支援できるようなことで取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

【宮川委員長】 ありがとうございます。

ただいま、事務局、社会福祉協議会様を含めて説明がありましたが、この後、住吉区地域福祉ビジョンVer. 4.0のお話に入るかと思うんですけど、その布石になるかなと思っております。この資料1から資料4の部分ですね。今の時点で何か皆様からご質問、ご意見ございましたら、ご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。ご質問でも結構です。

当てていいですかね。相良会長、いかがですか。

【相良委員】 一番のご指名を受けましたので、簡単に、じゃあ。

うちも福祉ビジョン、清水丘のはいろいろとこうやっているんですけど、基本的には僕の考えは、みんな年寄りの方が集まるところに、今日も喫茶とカラオケ大会のところに行ってきたんですけど、みんなやっぱりにぎやかに元気。そういう感じなところを、足を運んでいただいて、それで、年配の方はどう思ってるのかなと。こういういろいろなアンケートがいっぱい載っていますけども、基本的には年寄りが楽しく過ごせるやっぱりまち。まちと言ったらおかしい。まちでないと思いますので。いろいろと今僕のほうも考えているんですけども。

今考えていることは、どうしたら男性の方が参加していただけるかということで。それで、第1弾ですけども、自慢になりますけども、マージャンとか、今まだ募集をかけているんですけど、大体75名やっておりますのでね。あとは、最近はグラウンド・ゴルフ大会をやりまして、42名ですかね。副部長さんも参加していただきましてにぎやかにやりましたんですけど。そういう参加をする場所を僕はたくさんつくることが一番大事かな、やっぱり年寄りの方と接触することが一番大事かなとつくづく思っていますので。なかなかこうした試作したら当たると言ったらおかしいけど、よくなっていくということやろうと思いますけど、こつこつとできることからやって。

それで、最近僕、社会福祉協議会の松尾事務局長が今やっていますけど、今度何かやっぱり変わったことをやらんとあかんなと思って、7月4日に落語会を開催しますよ。7月4日ですね。それで、今、全協会に配布しているんですけども、好評で、大体定員50名のところを今のところ何かオーバーするような感じでやっていますので。それで、みんな聞いてみると、そういう行く場所が、どこに行ったらいろいろと話ができるのかなとありますので、そういうイベントから年配の方を呼んでいただいて楽しくできるようなのが一番いいのかなと思っていますので、そういうことでよろしくお願いします。

あとは、昔、ネットワーク委員会というもともとあったんですけども、今はその見守り隊に変わっていますよね。ですから、そういうつながりで、もともと清水丘というところはネットワークはずっと、消さなくてずっと続いてきていますので、そういう利点もあるのかなと思いますので。

こんな例ですけども、年寄りが集まる場所をたくさんつくってあげることが一番基本的かなと思いますので。簡単ですけども、そう思っております。

ありがとうございます。

【宮川委員長】 ありがとうございます。参加する場をつくるのが一番という非常に貴重なご意見いただきました。ありがとうございます。

そのほか何か。今の話を受けてとかでご意見等ございましたら。いかがでしょうか。

またこの後、まだお時間ありますので、何か思いついたりとか、ちょっと後々、資料1のこの部分についてとか、そういうのがございましたらまたご意見等いただけたらと思います。

【小野教授】 じゃ、私から、もしよろしければ。

【宮川委員長】 小野先生、よろしく申し上げます。

【小野教授】 ありがとうございます。今の報告について、少し簡単なコメントをさせていただきます。

まず、これは皆さん、何ていうか、この専門会議も大分メンバーも入れ替わっているの、言わずもがなのことをちょっと言わせていただきたいと思うんですけど。

一番最初のところのご報告にあったこれまでの取り組みと見えてきた課題ということなんですが、これはちょっと事務局のほうにも言ったんですけども、地域福祉って基本的には縦割りではないということなんですよ。縦割りではない。

それで、これも言ったことなんですけど、高齢者支援とか障がい者支援とか子ども支援とかというふうになるとちょっと縦割り感が出ちゃうので、最初に言えばよかったのかなど。最初に、縦割りじゃないですよ。だけど、取り組んでいるのはこういうところなので、こういうところから出しますというふうなところが非常に重要で、その順番がないと、どうしても縦割りの話ばかりしちゃうとそこの話になっちゃうので、それをやるんだったら別にここじゃなくてもいいわけなので。これはあくまでも全体のことを知るためのこういう分野ではこういうふうにやっていますというぐらいでご報告をいただいたというふうに理解していただければいいのかなと。地域福祉は縦割りではないです。それをやっちゃったら地域福祉をやる意味がないので、そこだけはまずは入り口のところとして見ておけばいいなど。

実はこの後の福祉ビジョンのところにももう反映されることなので、じゃ、何をやるんだということでしたら、いわゆる支援でしたら包括的な支援をどうつくるかですね、専門職でしたら連携をしながら総合的な相談を受けて、それで支援はどうするかという、包括的にどう支援していくのかという点、それが1つと、もう1つは、先ほど相良会長が言っていたまさに場づくりですね。地域の場づくりをどうしていくのか。これは住民参加なんかに関わるところで、この大きなところを2つ意識しておくというのが今の地域福祉の動向、地域共生社会なんかもそうですから、それでほぼほぼ間違いはないようなことで、ビジョンはそういう立ってつけになっていますので、そのあたりは皆さんと共有しておくことが非常に重要だなと思って、あえてちょっと言わせていただいたわけです。

もう1つは、せっかくアンケートをご報告いただいたので、非常に興味深いアンケートになっていると思いますが、この130人という数字どう見るかというのものもあるんですけども、例えば地域性でかなり回答者の数がばらついているので、そのあたりの見方はちょっと後でさらに検討しといたらいいかないかなというの少し思いました。

これ以上は僕は何とも言えないんですけど、例えば、地域の活発度合いを考えてみて、この地域でこの人数、このバランスでどうなんだというあたりが、例えば社協のほうでも少し検討してもらって。具体的に出しちゃって何ですけど、墨江地区では1人しか答えてないんですけど、墨江地区の活動度合いからしたら、ちょっとやっぱりこれ、少し、全体の意見を反映してるのというか、バランスを反映してるのみたいな話になると思いますので、ちょっとそれは修正しながら見ていったらいいなというのが1つです。

もう1つは、報告、すごい丁寧に分析していたので、クロス集計という考え方だと思います。特に、幾つか恐らくできるところがあるんですけど、例えば年齢のことですよね。⑫の年齢のことで、高齢者が多いと。60代以上が多いということなんですが、40代、50代が20人弱ぐらいいて、要は例えばこの年代と活動のきっかけ。だから、若い人たちに活動をしてもらうにはどんな仕掛けがいいのかというのを考えようと思ったら、クロス集計しないと見えてこないですよ。

だから、前提として長期にずっとやっている人たちが多いという話がありました。長期にずっとやっているので、何歳ぐらいから関わったのかちょっと分からないんですけど、でも、若い人たちに広げようと思ったら、もうちょっとどういうふうな仕掛けがいいんだろうと考えていくためには、このクロス集計をやるともうちょっと見えてくるところが、ちょっと母数が少ないので何なんですけど、あるかなとかということとか、同様に活動時間とか貢献、貢献とやりがいのクロスなんかもすごく面白いものが出そうな感じがしていますので、そのあたり、少しクロス集計をやってもうちょっと分析がさらに深まるんじゃないのかなということで、せっかくこの貴重なアンケートですので、そのあたりができそうな感じはしました。

もう1点だけ、すみません。地域座談会の報告があって、いろいろな地域の様子が分かったと思うんですけど、これをここだけの共有じゃなくて、もっと区民の皆さんにより知ってもらうような仕掛けをぜひしていきたいと。これ、本当に何年も積み上げてやってきた努力の結晶だと思っていますから。全部のところができてないじゃないというのがあるのかもしれませんが、そのあたりは区長の英断で、まずやれるところから、こんな活動がやれるんだよというのを示して、みんなでやっていく雰囲気をつくったらいいいのかなと思ったので、せっかくここ、ありますから、これをより多くの人に知ってもらう工夫ができれば素晴らしいなというのを感じました。

以上、簡単なコメントですけど。委員長に戻します。

【宮川委員長】 ありがとうございます。

縦割りではないというところは非常に大事やなというふうに思いましたし、あと、地域座談会の在り方というところで、こちらのほうはどういう人たちを巻き込んでいくのかというところですね。それは地域によって様々だと思うんですけど、その辺の仕掛けづくりというのが非常に難しいかなというふうなところで、また考えていきたいというふうに思います。

それでは、報告事項としましては以上でよろしいですかね。

そしたら、次に議事のほうに入りたいと思いますが、本日の議事、1つだけ。「住吉区地域福祉ビジョンVer. 4.0」素案ということで、これについて、事務局から説明をよろしくお願ひします。

【津村地域福祉担当課長代理】 福祉課の津村です。着座にてご説明させていただきます。

それでは、「住吉区地域福祉ビジョンVer. 4.0」（素案）作成に当たって、事務局の考えについてご説明させていただきます。

Ver. 4.0（素案）の作成に当たっては、前回の専門会議において委員の皆様からご承認いただきましたので、Ver. 3.0の基本理念などを継承しつつ、各種会議体や、さきに開催させていただきました小委員会でのご意見などを踏まえて作成していますが、小委員会でのご意見がアクションプランにつながる部分が多かったため、本日お示しする資料にはあまり反映されていない点について、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。

次に、先ほどご報告いたしましたこれまでの取り組みと見えてきた課題と今回素案としてお示しします地域福祉ビジョンVer. 4.0との関係性を可視化する意味で、事務局なりの考えを資料に落とし込んでいます。これにつきましては、12月頃を予定していますパブリックコメントの段階では削除を予定していますので、よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料番号6をご覧ください。

まず、この資料の構成といたしまして、上段に現行のVer. 3.0を掲載し、変更した部分を赤線で消しています。下段がVer. 4.0（素案）を掲載し、追記した内容を朱書きにアンダーラインを引いていますので、比較しながらご覧いただければと思います。

まず、表紙については、バージョンなど数値について変更させていただきました。

続いて、裏面の目次に行きます。

目次のほうですけれども、基本目標1、2、それぞれに4つのスローガンがあるのですけ

れども、Ver. 3.0ではちょっとそれを全て目次に掲載しておったのですが、この部分についてはちょっと削除させていただいております。

また、改訂にあたってというのは、改訂する意義みたいなものを説明するところになっておりますので、本題に入る前に、前のほうへ移動をさせていただいております。

なお、地域福祉をとりまく状況は統計資料となっております、令和7年度に実施された国勢調査の結果が8月か9月頃には出ると聞いておりますので、次回には結果を反映させお示しすることができると思っておりますので、ご了承を願います。

次のページのところで、「はじめに」というところになりますが、真ん中あたりに新型コロナウイルス感染症の記載がありましたので、現状課題に置き換え、この真ん中あたりの「その一方で、社会構造の変化や個人主義的傾向の強まり」という表現に変更させていただいております。

また、後段については、可能性の広がりについて少し具体的な説明として、「対面でのつながりを大切にしながらも、これからはSNSやAIの活用など、新しい手段も取り入れることで、新たなつながりのかたちが広がる可能性もあります」という表現に変更させていただいております。

また裏面に行きまして、こちら、ビジョンの改訂にあたっての(1)の後段のところにも新型コロナウイルス感染症の記載がありましたので、こちらも現状課題に置き換えさせていただきまして、「このように、さまざまな取組が行われてきましたが、地域住民の生活スタイルや価値観の多様化、地域活動者の高齢化による担い手不足の深刻化、身寄りのない高齢者の増加、個人情報の壁などにより、これまでの地域活動のありかたの見直しが課題となっています。一方で、孤立・孤独問題の広がり対策として、地域のつながりの再構築という観点から、地域活動の活性化が求められています」という表現に変更させていただいております。

次のページに行きまして、(2)の①の部分ですが、この部分について、区のビジョンであるということをし少し際立たせるという意味で1行ちょっと追加させていただきまして、「市と区が同じ方向を向かいつつ、住吉区らしい地域福祉を力強く推進していきます」という表現をちょっと追加させていただいております。

続いて、裏面に行きまして、こちら、基本理念のところになりますが、冒頭でもご説明させていただいたとおり、基本的な部分はVer. 3.0を踏襲しておりますので変更はなく、「ゆるやかなつながりで、このまちの希望を形に、一人ひとりがかがやこう」を基本理念

としています。

「はじめに」のところで記載した「個人主義」という言葉と通ずるものがあるのかもしれませんが、人とのつながりは大切ですが、人から強く関わられるのが苦手な人など、いろんな個性がある中で、それぞれが自分に合ったつながりを地域全体で育てていくことが大切で、そのつながりが大きな力となり、結果、一人ひとりがかがやけるまちになることを願うという理念になっております。

次のページは、基本理念の考え方についてですが、基本理念を達成するため、①みんなの夢や知恵を形にして、一人ひとりがかがやけるまちづくり、②ちがいを力に、自分の意見・自分で決めるを大切に、③誰もひとりぼっちにしないという3つの柱で引き続き構成させていただいております。

裏面に行きまして、基本目標ですが、こちらの変更はございません。

基本目標1、ちがいとつながりを力にして、一人ひとりがかがやけるまちづくり、基本目標2、気になる人をまるごと、支えあい気かけあうしくみづくりと掲げており、基本目標1は地域での取り組みの部分、基本目標2は制度や仕組みづくりであり、行政が担う部分が多いのかと考えております。それぞれの目標にある4つのスローガンについては、後ほどご説明させていただきたいと思っております。

次のページは、住吉区の地域福祉ビジョンの構成イメージ図ですので、ご覧いただければと思います。

そしたら、また裏面に行きまして、ここからは、資料番号1のこれまでの取り組みと見えてきた課題についてと併せてご覧いただければと思います。

基本目標1、2ともに4つのスローガンがあり、Ver. 4.0ではスローガンごとに現状と課題、これからの目標を記載しています。各項目に対して、資料1に記載の見えてきた課題がビジョンに反映できているかを可視化するため、資料に課題番号を落とし込んでおります。例えば、基本目標1の①、現状と課題の1つ目の項目では、資料1の高齢者支援の①②③と障がい者支援①の課題が当てはまっていると考えました。

ここはいろんな考え方がありますが、事務局として整理させていただきましたので、ご参考としていただければ幸いです。

また、上段にありますVer. 3.0に記載しておりましたこれまで取り組めたことにつきましては、次回お示しするアクションプランに記載し、アクションプランにも課題番号を落とし込んでいきたいと考えています。

なお、先ほどご説明させていただきましたが、この課題番号についてはパブリックコメントの段階で削除させていただきますので、ご了承願います。

それでは、基本目標1の①自分と地域を重ねて、しあわせを考えられる住吉区にですが、このスローガンを一言で言うと、きっかけづくりと考えております。

まず、現状と課題の1つ目は、高齢者支援①②③と障がい者支援①の課題とリンクしています。

2つ目は、高齢者支援①②③と障がい者支援①の課題とリンクしています。

3つ目は、Ver. 4.0で追加したのですが、アンケート結果でもありましたが、地域活動に参加されている方の高齢化が進んでおり、また、活動経験年数も長いという傾向があり、担い手不足は喫緊の課題となっております。小委員会の中で「中学生は生涯学習の機会など素直に受け止めることができる」という感想をいただいたこともあり、今まで以上に幅広い年代へのアプローチが重要であると考え、追加させていただいております。この項目については、高齢者支援の①③の課題とリンクしています。

続いて、これからの目標の1つ目は、高齢者支援の①②と障がい者支援の①の課題とリンクしています。

2つ目は、高齢者支援③の課題とリンクしております。

3つ目は、先ほどの課題に対して、幅広い世代に地域の魅力や取り組みを共有できる仕組みづくりを目標として追加しました。この項目については、高齢者支援①③の課題とリンクしております。

次のページで、基本目標1の②地域のしあわせをいろいろな人と話しあえる住吉区にですが、このスローガンを一言で言うと、集う場づくりと考えております。

まず、現状と課題の1つ目は、高齢者支援の①②③と障がい者支援の②の課題とリンクすると考えております。

2つ目も同様に、高齢者支援の①②③、障がい者支援の②の課題とリンクしています。

3つ目は、Ver. 4.0で追加したのですが、後で出てきますが、令和7年度に実施された大阪市における地域福祉にかかる実態調査では、地域福祉活動に関心があると答えた方が56%いる中で実際参加されたのは7%と低く、様々な生活様式に応じて参加できるよう、開催する時間や場所などの工夫が必要であると考え、追加させていただきました。この項目も、高齢者支援の①②③と障がい者支援②の課題とリンクしています。

続いて、これからの目標の項目が1つで、高齢者支援の①②③と障がい者支援②の課題

とリンクしています。

裏面に行きまして、基本目標1の③助け助けられ、お互いさまを実感できる住吉区にですが、このスローガンを一言で言うと、役割づくりと考えています。

まず、現状と課題の1つ目は、高齢者支援①②③と障がい者支援①②③の課題とリンクしています。

2つ目が、先ほどご紹介した実態調査で、この項目は高齢者支援①②③の課題とリンクしています。

3つ目は、こちらもVer.4.0で追加させていただいております、小委員会の中で「地域座談会に障がい者支援の事業所も参加できればいい」というご意見もあり、誰もが分け隔てなく参加できる環境が必要であると考え、追加させていただいております。この項目は、高齢者支援①②③と障がい者支援①②③の課題とリンクしています。

続いて、これからの目標の1つ目は、高齢者支援①②③と障がい者支援①②③の課題とリンクしております。

2つ目は、Ver.4.0でこちらも追加しておりますが、小委員会の中で「地域福祉活動に参加すると、担い手が少なく、あれもこれも任されることがあり負担感が増す」という意見がある一方で、アンケートで「仲間と協力できた喜び」や「感謝されたときにやりがいを感じる」という回答があり、ただ活動に参加するというやらされ感ではなく、充実感を実感できることが重要であると考え、追加させていただいております。この項目につきまして、高齢者支援の①②③と障がい者支援②の課題とリンクしています。

3つ目も高齢者支援の①②③と障がい者支援の課題とリンクしております。

次のページ、基本目標1の④地域のしあわせ「今」「これから」がみんなに見える住吉区にですが、このスローガンを一言で言うと、情報発信と考えております。

まず、現状と課題の1つ目は、高齢者支援①③の課題とリンクしています。

2つ目も高齢者支援①③の課題とリンクしています。

続いて、これからの目標の1つ目も高齢者支援①③の課題とリンクしています。

2つ目も高齢者支援①③の課題とリンクしております。

続いて、裏面に行きまして、ここからは基本目標2となり、初めに説明させていただきましたが、制度や仕組みづくりの部分となっております。

基本目標2の①すべての人が自分の意見を言える、それが大切にされる住吉区にですが、このスローガンを一言で言うと、個人の権利を守ると考えています。

まず、現状と課題の1つ目は、高齢者支援②④と障がい者支援①②、子ども支援①②③、複合的な課題を抱える世帯への支援④の課題とリンクしています。

2つ目は、高齢者支援②④と障がい者支援①②、複合的な課題を抱える世帯の支援④の課題とリンクしています。

3つ目は、高齢者支援②④と障がい者支援②、複合的な課題を抱える世帯への支援④の課題とリンクしております。

4つ目は、またVer. 4.0で追加させていただいております。この間のIT化は目覚ましく、早く広く周知する手段としては有効である反面、情報難民と言われるように、高齢者など情報にアクセスできない状況があるため、追加させていただいております。この項目は、高齢者支援④と複合的な課題を抱える世帯への支援の④の課題とリンクしております。

続いて、これからの目標の1つ目は、高齢者支援②と障がい者支援①②、子ども支援①②③、複合的な課題を抱える世帯への支援④の課題とリンクしています。

2つ目は、高齢者支援②と障がい者支援①②の課題とリンクしています。

3つ目は、Ver. 4.0で追加させていただいております。現状と課題でもご説明させていただいたとおり、必要な情報が必要な人へ行き渡るような仕組みづくりが必要であると考え、追加させていただいております。この項目は、高齢者支援②④と障がい者支援①②、複合的な課題を抱える世帯への支援④の課題とリンクしております。

次のページに行きまして、基本目標2の②たくさんの「気になるなあ」が支援につながる住吉区にですが、このスローガンを一言で言うと、気づきと共有と考えています。

まず、現状と課題の1つ目は、高齢者支援①と障がい者支援①②、子どもへの支援①②③の課題とリンクしています。

2つ目は、子ども支援①②③の課題とリンクしています。

3つ目は、高齢者支援①②の課題とリンクしています。

4つ目は、Ver. 4.0で追加させていただいておりますが、小委員会の中で「個人情報を重視するあまり地域や要支援者の情報を共有できていない」というご意見があり、追加させていただいております。この項目は、高齢者支援①と障がい者支援③の課題とリンクしております。

続いて、これからの目標の1つ目は、高齢者支援①②と障がい者支援①②、子ども支援①②③の課題とリンクしています。

2つ目は、高齢者支援①②と障がい者支援①②の課題とリンクしています。

3つ目は、こちらもVer. 4.0で追加させていただいております。現状と課題でご説明したとおり、権利擁護と個人情報の壁について、地域住民と行政や関係機関が一体となり、この問題をどう解決していくのか考えていく機会が必要であると考え、追加させていただいております。この項目は、高齢者支援①②と障がい者支援③の課題とリンクしております。

裏面に行きまして、基本目標2の③「木も見る、森も見る」まるごとを話しあい、支援が進む住吉区にですが、このスローガンを一言で言うと、支援のネットワークづくりと考えています。

まず、現状と課題の1つ目は、複合的な課題を抱える世帯への支援①から④全ての課題とリンクしております。

2つ目につきましても、複合的な課題を抱える世帯への支援の全ての課題とリンクしております。

続きまして、これからの目標は項目が1つですが、こちらも複合的な課題を抱える世帯への支援の全ての課題とリンクしております。

次のページ、基本目標2の④それぞれができることから、大きな力を生みだせる住吉区にですが、このスローガンを一言で言うと、支援者同士の連携と考えております。

まず、現状と課題の1つは、複合的な課題を抱える世帯への支援の全てにリンクしています。

2つ目につきましても、複合的な課題を抱える世帯への支援の全ての課題とリンクしております。

3つ目は、Ver. 4.0で追加させていただいておりますが、複合的な課題を抱える世帯への支援を単独で解決することは難しく、解決まで長期間になることが多く、また、支援者が疲弊しないために支援者支援も必要であると考え、追加しました。この項目は、複合的な課題を抱える世帯への全ての課題とリンクしております。

続いて、最後に、これからの目標は項目が1つで、複合的な課題を抱える世帯への支援の全てにリンクしていると考えております。

最後、裏面に行きまして、報告1で先ほどご説明させていただいたとおり、支援機関や各種会議体などの声を行政に反映していくイメージ図となっていますので、ご覧ください。

お聞き苦しいところがあったかと思いますが、説明は以上になります。

【宮川委員長】 ありがとうございます。

ただいま事務局より「住吉区地域福祉ビジョンVer. 4.0」（素案）について説明がありま

したが、その中の10ページにありましたかね。令和9年度から向こう3年間、住吉区が地域福祉を推し進める重要な指針ということになりますので、委員の皆さんが専門としておられる分野はもとより、広い視点で忌憚のないご意見というのをいただきたいと思います。

基本目標1はまちづくりの部分、基本目標2というのは仕組みづくりの部分というふうに分かれています。

まず、基本目標1のまちづくりのほうですかね。そちらのご意見、ご質問をいただけたらと思うんですが、いかがでしょうか。

何か左右に分かれているような感じもせんでもないんですが、まちづくりと言えばこっちのほうかな。

實宗委員、いかがでしょうか。

【實宗委員】 まちづくりというかね。アンケート結果も見させてもらって、福祉活動をする方の後継者という方がなかなかいないというふうなことをお伺いしているんですけど、やっぱり実際いない。民生委員の後継者もなかなか探すのも難しいような現状で、難しいんですけど、実際動かれているのは、高齢者食事サービスであるとか子ども食堂の準備とかうちの民生委員さんも関わったりして動いておられますけれども、正直言って、みんな善意のボランティアに頼っての、そういう使命がある方が動いておられるというのが現状だと思うんです。

多くの清水丘に住んでおられる方は、そういう善意のある方というのはやっぱり生活に少し余裕のある方で、子育ても終わったし、ちょっとそういう地域のことについてやってみたいと思われる方が率先してとか、知り合いがとかPTAの関係で、「誰々ちゃんのお母さんがやってるから、あんたもちょっとやってみいひん？」とか誘われて参加されている方が多いんです。見守りについても、婦人部の方が中心で見守り活動をされているんですけども、その人たちも要はボランティアですよ。多分ほとんど報酬は出てないと思うんです。

そやから、そういう善意に頼ってそういう地域福祉活動をというのは、なかなか今後続けていくのがやっぱりしんどいのと違うかなと。私なんかはこの住吉区の清水丘に生まれて、ずっとここに住んでいますから、その地域に対しての思い入れはあるんですけど、やっぱり若い方なんかは移動されるとなると、地域に対しての思い入れはやっぱり僕なんかとは違ってかなり低いと思います。そういう方々の若い人たちに地域のボランティアに参加してくださいと言っても多分通用しないというか、ほとんどそういう耳、言うたら理解

してもらえへんというか、そういうふうに参加してもらえないのがほぼ現状だと思います。

役所の皆さんがこういうビジョンをつくっていただいて方向性を示していただくのはすごいありがたいんですけど、要は役所の皆さんもこれをつくるのが仕事で、報酬が出ているわけですよね。でも、相良会長含め、地域で実際動いている人は無収入、無報酬で、言うたらやられているわけです。その部分がやっぱりなかなか正直言うて後継者がいないというのが分かるなというふうに思うので、何かもうちょっと、やる気だけに頼るんじゃなくて、もう少し何か目に見えた形が取れば、後継者の方も徐々に増えてくるんじゃないかなと思います。

すみません、以上です。

【宮川委員長】 ありがとうございます。

実際地域活動というところで関わっておられる方というのはなかなか、本当に無報酬というお話ありましたが、どういう思いで地域の中で活動されているかということも、それを大事にしながら地域福祉というのを推進しないと駄目なのかなというふうに感じられますけど。

役所から今のご意見で何かコメントありますか。

【稲岡福祉課長】 福祉課長、稲岡でございます。

貴重なご意見ありがとうございます。實宗委員からもおっしゃっていただいていますもう善意のボランティアに頼っているというのは、もう本当にもうおっしゃるとおりやと思います。ただ、実際地域の活動、このアンケートの数、先ほど小野先生からもありましたけど、決して多くございません。このアンケートについては、継続して取ることによって、より幅広い皆さんからのお考えであったりとか、よりこれをクロス集計していくことによっていろいろ分析が進んでいくかと思っております。

当然行政がさせていただくいろんな業務であったりとかはありますけども、やはり地域の活動につきましては、こういう善意であったりとかボランティアに頼っている部分というのはまだまだございます。ただ、そういったところに参加していただくきっかけづくりでありますとか、本当に参加してもいいかなと思っただけのもの、これをどうやって作り込んでいくのかというのが非常に大事かと考えておりますので。

まだまだこれは当然時間もかかりますし、やはり先ほどご意見でもありました地域への思い入れ、そういったのをつくり上げていくというのもボランティアにつながっていく要素になろうかと思っておりますので。当然今後また小委員会等でもいろいろ行動計画をやっ

く中でも、そういったものを1つでも2つでも組み入れていくことができたなら一番いいかなと思っております。

すぐに答えが出ないところで申し訳ございませんが、ちょっと現状ではそういったところでございます。

【宮川委員長】 小委員会でもアクションプランにつながる部分が多くなっているというのは、やっぱりその地域の思いというか、そういうのが出てしまうので、そういうふうになくなってしまったのかな。それをいかにこの計画のほうに落とし込むかというところが大事なのかなというふうに思います。

ちょっと時間のほうがあれなんですけど、よろしいですかね。

多賀谷委員からも何かございましたら。

【多賀谷委員】 どうなんですかね。ボランティア、前もちょっとここで言ったか言っていないか分からないですけども、自分の自己実現だけでこのボランティアだけするというのやったら、割合にいろんな人が参加していたりとか自分でやったりするかもわからないですけども、もう何かこういうふうなことになっていろんなことをやらないいけないとなると、重くなってしまふんじゃないかと。

それともう1つは、やっぱり簡単に。昔は例えばPTAというの、嫌やねん、しんどいねんと言いながら好きでやっている人はたくさんいてたんですけども、そのPTAみたいなのがその地域の活動の、何ていうのかな、ボランティアと言っているのかどうか分かりませんが、そういうもののそこで醸成されてきて、PTAをやっていた人らがいろんなことに入っていったというのがあるんですけども。今そういうのがもう全くなくなっているんじゃないかなと。大上段にばーんと福祉や何かがあるんだというふうになってしまうと、やっぱりしんどいかもわからないですよ。

例えば高齢者にしても、高齢者はこういうことをしなあかんから楽しまなあかんと思っ
ていること自体がね。思っていること自体が全然間違っているかもわからないです。うち。
言っているように十何人、80歳とか90歳の女の人ばかりで男の人は来ないですけど、1
人、ようしゃべるおばちゃんが出て、わーわー言うてるけど、じーっと聞いているん
ですよ。毎回来てじーっと聞いてはるんですけども。それで何が楽しいのかなと思
いながらも、僕ら気をつけながら何かいろいろ言うんですけどもね。そやけど、それ
でも楽しいのかな。一遍聞いてみな分からへんので、聞くのも怖いんですけども。

本当にそうなんです。いろんなことをいろんなことでやっているの、1つ、これ、難

しい話なんですけど。決めるのは駄目でしょうし、皆さんが一番悩んでいるように、本当に好きで楽しくて、いろんなことがあって、そういうところからボランティアをやる人が育ってくるようなものがあればいいかなと思いますよね。自己実現って自分が楽しくなかったらやっぱり駄目かなという気はしますよね。

以上でございます。答えになってへんな。問題だけ言うただけや。すみませんけど。

【宮川委員長】 参加していただくというところで、今皆さんがおっしゃられている部分は担い手の部分かなというふうに思っています。この新しいビジョンのほう、こちらの中で担い手づくりというのをいかにするかというところ、それがこの基本目標1のまちづくりの部分に落とし込まないと駄目なのかなというふうに思っていますので、今おっしゃられた部分というのが果たしてそこまできちっと落とし込んでいるかどうかということも含めて、ちょっとまた検討していただけたらなというふうに思います。

松岡委員、よろしくをお願いします。

【松岡委員】 住吉区地域自立支援協議会から参りました松岡です。

ご報告ありがとうございました。

私のほうからは、基本目標1の③のところの部分で、自立支援協議会のメンバーからいろんな意見をいただいてきたので、少し共有だけさせてもらったらと思います。

3つ目のところですかね。年齢とか障がいとか国籍など関係なく、地域活動に参加できることが大切ですということも課題に入れていただいて、目標設定も入れていただいているのは、非常に先ほどの小野先生がおっしゃってくれた縦割りで地域福祉を考えるんじゃないということを含めて本当に同感です。

特に私たちは障がいをお持ちの方の支援に日頃携わっている団体ですので、なかなかこれは地域というよりかは、学校教育もそうですけれども、障がいのある人たちと共に出会って共に過ごす時間が少ないというところから、知らなくて、分からなくて、どうしたらいいんだろうというのをお互いにちょっと不安とか心配とかが出てしまっていて、そこがまさに啓発というところにもかかってくると思うんですが、そこにおいては、私たち支援者側がご本人さんたちやいろんな人たちと一緒に対話したり一緒に過ごせる場をつくるというのは本当に大事だと思って聞いていました。なので、地域座談会の取り組みなども本当に具体的に生かせる場所だなというふうに感じました。誰かの責任のもとではなく、みんなが自分たちの問題として考えることが重要だというふうに思いました。

先ほどお二人の委員の話も、多賀谷先生のお話も聞いていて感じたんですが、おっしゃ

られるとおりで、地域福祉は本当にお一人お一人の善意というか、思いで成り立っている。もちろんそういうものだという事は私も十分了解はしておるんですが、やはりその言葉への配慮というところは本当に考えなければいけないなと思いました。

以上です。

【宮川委員長】 ありがとうございます。

今、いろいろ国籍や年齢とか障がいとか関係なくというところでプランのほうをつくっていきたいと思います。

藤居さんが何か話をしたそうなので。

【藤居委員】 住吉区の社会福祉連絡会の藤居と申します。

社会福祉施設連絡会は、区役所とか区在宅と協働して、毎年防災のイベントとか、「ふらっと楽しむ“すみよし”」というふれあいのイベントとか、福祉の職場体験ツアーというのに取り組んではいるんです。66施設加入はしているんですけども、その加入している施設の中でも温度差がかなりありまして、常に参加してくださる施設と、そうではない全くも加入だけしているという施設がありまして、この7月23日に総会が開かれるんですけども、そこで、いま一度、社会福祉施設として地域の中でどう貢献していくとかか交流をどのように取り組んでいくかということテーマとして、講義を受けてワークショップをする予定になっております。

住吉区の中で職場として私たちは関わっているわけですが、その中の利用者さんやそのご家族さんと、また施設同士でどのように関わっていったらいいのかを考えるいい機会に、今さらなんですけどそういう取り組みができると思います。

以上です。

【宮川委員長】 支援する側の話というところで、この基本目標2のほうにも関わるのかなというふうに思いました。ありがとうございます。

この基本目標2のほうは仕組みづくりということなんですけど、こちらのほうでも含めて何かご意見、ご質問ございましたらお願いしたいと思います。

順番というわけじゃないんですけど、ちょっと今日が合ったので、殿井さん、お願いします。

【殿井委員】 地域包括支援センター連絡会から来ました殿井です。よろしく申し上げます。

基本目標2のほうの部分で新しく追加した部分でいいますと、やはり個人情報保護とそ

の利用するに当たっての壁と言われるのか、どういう表現がいいのかというところはあるんですけども。やはり我々日頃から個人情報をもろん大事にして、どこまで提供するかということも気にしながらなんですけども、支援を展開しているという形になります。

その中で、やはりご近所であったり支えてくださる関係者の方々にどこまで情報提供するかというのは、やっぱり常に課題としてというか、出したいけども出してはいけないとか、出したほうが本当は連携がしやすくなるんだろうなという場面であっても、やはり本人が出さないでくれと言うものに関しては出せないということもありますし、法律上はやっぱりその法に基づいてやっている仕事の中では出せないも部分があったりということで、支援者として関わっている中で苦しむ部分もあるかなというの思います。

その中で、民生委員さんであればまだ出せるけど、ご近所のお隣さんでは出してはいけないという、そういう微妙な境目であったりとかということがとても気になるので、この一緒に考えるというのが目標として入れてどこまで解決できるかなというところ、とても難しいとは思いますが、問題意識として持つというところではとても大事なかなというふうに感じました。

以上です。

【宮川委員長】 これ、永遠の課題なんですけどね、本当に。個人情報の壁というところはやはりあるかとは思いますが。専門職だけではなく、地域で活動している方々も、やはりその個人情報の壁というところでなかなか動きづらかったりとかいう部分はお持ちだと思います。この辺が、プランとして上げるというところは全然問題はないというふうには思うんですけど、またそれをどう運用していくかという部分は、今後また課題かなというふうに思います。貴重なご意見ありがとうございます。

山野委員、いかがですか。

【山野委員】 住吉区の介護保険サービス事業者連絡会のケアマネ部会から来ました山野です。

私のほうは、34ページのところで支援者同士の連携というところの基本目標2のところでは、やっぱり今回追加された「福祉課題の複雑化により、支援が長期間に及ぶことが多い」ということで、継続した支援で、支援者側にもケアが必要ですというか、課題ですというところがあります。まさしく私たちケアマネだけでは全然もうちょっと大変なところもあって、本当に皆さんの先ほどからお話のあるボランティアさんのお手伝いで皆さんに本当に関わっていただいているんですけど、課題が解決できるというのは、なかなか本当に

解決したということがあんまりなくて、やっぱり問題がちょっと小さくなったとなっただけで、いつ爆発するか分からない状態でずっと経過していて、私たちも本当にしんどいところですよ。

何とかしてその支援者同士でこの連携をね。連携というか、やっぱり話し合える場。だから、地域の方も話し合える場も欲しいけど、私たちも話し合える場が本当にあるといいなと思っているのと、デジタル化も今回出てきているんですけど、本当にデジタルも高齢者の方が全員が、確かに使える方もいらっしゃいますが、使えない方も多くて、それに、何か犯罪に巻き込まれる方もすごく多いです。本当に昨今犯罪がすごく、巻き込まれて、高齢者の方が在宅で住みたいのに、一人暮らししたいのに、やっぱり施設に行かなければいけない状態が本当に多々あって、どんなふうにしていったらいいのかというのは、まさしくやっぱり地域でのその課題で、どんなふうに暮らし続けるかなとすごく思っています。

それで、私たちケアマネも、どうしたら正解になるかとかそんなに分からないところも多くて、確かに介護報酬で私たち給料をもらっていますから、無報酬ではないですね。お金もある程度、給料としては発生していますが、やはり私たちはしんどくてもやり続けている一番の理由は、やっぱり利用者さんが本当に暮らしてよかったねとか言うその笑顔とか、もう本当にお金にならないことで私たちはちょっと喜びを感じて続けていけることも多くて、なかなかそれが実感としてみんなで共有できる場がもっとあればいいのになと思っています。

だから、今回のこのビジョンの中で、やっぱりもうちょっといろんな課題があって、特に高齢者、先ほどおっしゃっていたように縦割りの。私たち現場は全部複合的な支援というか、課題がほとんどが複合的です。8050だけじゃなくて、ヤングケアラーの問題も。でも、その子どもさんがいてはるから地域で暮らせる方も確かにいらっしゃるんです。だから、その成り立ちのその、何ていうのかな、あかるところといいところの何かいつもその瀬戸際というのがすごく大変で、だから、それを皆さんでちょっと解決できたらなと思っていますので。

すみません。感じたことしか言えなくてすみません。

【宮川委員長】 ありがとうございます。いろんなお話が結構あって、整理がちょっとつかないですけど。

【山野委員】 すみません。

【宮川委員長】 本当に実際に支援している側も、地域で活動されている側も、本当に、

何ていうんですかね、大変な思いというか、やっている部分はあって、それを何とかしたいというところで、区役所のほうもいろいろこういうプランをつくりながら考えていただいていますので。こういう会議ですのでね。いろいろ言っていただくのは本当にありがたいと思いますので、区役所のほうも今のご意見でいろいろ考えていただけるというふうに信じておりますので、どうぞよろしくをお願いします。

最後、医療関係では、三橋先生、どうですか。

【三橋委員】 住吉区医師会の三橋と申します。

長らく包括支援センター運営協議会の委員長というのをさせていただいていた観点から、ちょっと引かかったところをお話ししたいと思います。

資料1の高齢者支援の縦割りと言われましたけども、④、「認知症高齢者の金銭管理をはじめとした各種制度を利用するには金銭的な負担や手続きの煩雑さなど利用しづらい」という課題なんですけども。今日も出ているこの金銭管理の課題というのは制度だけの問題ではなくて、先ほど山野さんも言われましたけども、認知症高齢者の金銭管理を例えば後見が決まるまでの間誰がするねんという話なんです。実際現場ではケアマネさんの事業所であったりとか、ヘルパーさんの事業所のヘルパーさんがリスクを負って管理しているというのが現状で、その課題というほうがどっちかというと運営協議会では問題に長らくなってきたんです。

なので、この課題④というのは、文章の前半と後半がちょっと乖離しているなと思って見ていたので、そういう支援者側のリスク管理というのを、先ほど言われた支援者側のケアも課題ですという文章で今回プランに入れていただければいいんですけど、それは一歩前進かなというふうに思いました。

以上です。

【宮川委員長】 そうですね。支援者側のこのリスクというところを追いながら対応されている部分というのは何かね。これはあってはならないとは思っていますのでね。区役所でどこまでそこができるかというところはあるけど、市とやっぱり連携しながら考えていただけたらなというふうに思っております。

時間のほうがちょっと私の調整ミスで大分と超過しております。

ほか、何か話したいということはありませんか。何でもいいですけど。よろしいですか。

じゃ、皆さん、多数のご意見いただきまして、ありがとうございます。

【小野教授】 はい。

【宮川委員長】 振らせていただきますので。

【小野教授】 すみません。段取りが分かってなくて。

【宮川委員長】 私もちよつと言いたいなというところがあるので。

私の意見というか、ちよつと区役所とも話をしていて思ったんですけど、この縦割りで考えてというところで資料1というのがあったわけなんですけど、このビジョンのほうに落とし込んだときに、子どもに関しての部分というのが少ないなというところは感じたんですね。

ただ、今ちよつとよく見てみると、基本目標1と2には一切子どもに関してのその課題部分というのがなくて、基本目標2のほうにはある程度カバーできている部分、カバーしていかなあかんというようなどころは入っているんですね。これはどういう意味なのかなとちよつと考えたときに、これ、過激な発言というところではないかもしれないんですけど、仕組みづくりは子どもに関しては結構頑張っているよと。でも、まちづくりの部分というところで、子どもはなかなか関わっていけない現状がもしかしたらあるのかなというようにちよつと見受けられましたので、その辺だけちよつと言っとこうかなというふうに思いました。

地域福祉は縦割りではないので、これも子どもに対してもケアできてるよという部分ももしかしたらあるかもしれないです。ただ、こうやって区役所が結構頑張って分けていただけて整理していただいた中で、そういう部分がちよつと見えたなという感じがしたので発言させていただきます。

以上、終わります。

じゃ、小野先生、すみません。総括的なコメントということでお願いしたいと思います。

【小野教授】 すみません。ちよつとフライング気味に。段取りが悪くて申し訳ない、委員長。

【宮川委員長】 いえ。

【小野教授】 すみません。一言じゃ終わらないので一応言っておきます。

まず、これは地域福祉ビジョンですけど、広く言ったら地域福祉計画とかビジョンと言われるものですね。当たり前ですけど、何ていうか、誰が立てていくのかという発想のところが一番重要なんですけど、ここの委員の皆さんが例えばいろんな意見を言って、それを反映させるような原案というふうな形になっていくというのは恐らく理想なんですよ。アンケートを取ったり、そういうことをやりながらしながら。それで、そうすると、自分

たちがつくった計画みたいな印象になっていって、例えば地域で地域座談会でやってこんな意見が出ましたとかこの委員会でこういうのが出ましたというのが盛り込まれてどんどんつくられてきて、自分たちの計画、ビジョンというような形になってきて、それは非常にいい、理想のものです。

建前で一応言っておきますけど、建前というか、形で言っておくと、地域福祉計画は基本は行政計画です。ですから、行政が責任を持って最終的には立案して進めていくという、そういう性格のものです。でも、行政計画と言っちゃると、やっぱりあなた方がつくったんでしょというふうな話になっちゃって、住民参加の意味がなくなっちゃうんですよね。地域福祉の大前提もう1つは、住民参加、地域参加です。それが無い計画をつくっても何の意味がないので。

ですので、内容としては行政計画という建前はあるんですけども、その内実としては、ここで立てるといふ発想がお互いに持ってないと、何ていうか、お客さんというか、はつきり言ってね。文句を言ってもいいんですけど、文句を言うだけで終わったら全然面白くないので、やっぱり自分たちの計画にどうしていくかということが、恐らく皆さんいろんな組織なり地域なりを代表して背負って来ているので、そういう立場ですから、どんどん言っていていいなというのが大前提のところですよ。

その上で、そうなるとうとう何が起こるかという、例えば、要は地域とか住民あるいは専門職が思っているそういう思いを計画に出して、それを支援するのは行政であると、そういう順番になっていくんですね。行政が言われたことを地域がやるということじゃなくて、こちらがやりたいことを支援するのが行政なんだと、区なんだと。さらに、区が出してきたそういうものを支えていくのがより広域行政である市であるという、そういうボトムアップ型のものが地域福祉ということになるのであれば、私がちょっとまず最初気になったのが、ここのビジョンの案の中で、これは本当に丁寧に書いてあるというのはよく分かるんですけど、10ページのところに新しく加えられた「市と区が同じ方向を向かいつつ、住吉区らしい地域福祉を力強く推進していきます」と、この書き方になっちゃると、恐らく市が言うことを区がやるというふうに読めちゃう。どう見ても読めちゃうので。

だから、せめて「向かいつつも」ぐらいの言葉を入れるとか、抵抗するのであればね。何かこれがないと、むしろ上から言われたことをやりますわというような話になっちゃって、これはちょっと面白くないと。

実は市のほうも、私、市のほうの委員もしていますけど、やっぱり区が何してるかとい

うことを聞かれるわけですよ。区のほうをやっぱりどういう位置づけにするか。それでアイデアが出てこなかったら市がどんどんやっちゃうんでしょけど、やっぱり区は区でちゃんとやりますよという気概はぜひ見せたほうが良いというふうに私は思います。どうするかは最終的にここで決めれば良いと思いますけど。私はそれを決める権利がないので。そういうところが大前提としてありますねということですね。

その上で、今回の改訂のところですけど、さっきの課題のところはどうしても入っちゃうと、これ、高齢のところ、これ、子どものところって見えちゃうので、何ていうか、パブリックコメントで取ると言っていましたけど、もう今の時点で、今回の説明で分かりましたので取っちゃったほうが煩わしくないような気がしました。

その上でなんですけれど、これ、書き方が現状と課題があって、これからの目標となっていますけど、計画、ビジョンですから、重要なのはこれからの姿なんです。こっちのほうが重要なんだということをもっと分かるようにしたほうが良いということ。なので、本当は見せ方も、これからはこうしたいんだ。これからというか、これ、3年ですもんね。3年後はこういうふうになっていたんだというのをまずしっかりと示して、その現状としては今こうだよというのはその後に来るぐらいのほうが、バックキャストの形になりますけど、そのほうがいいんじゃないのか。だから、よくできているからいいんですよ。前は僕、ここは言わなかったんですけどね。だから、逆にその逆にしたほうが良い。

それともう1つ、書き方として、目標で、めざしますという言葉になっちゃっているんですよ。めざすというのは確かに目標なんですけど、努力するというで終わっているの、これだけ努力しましたで終わっちゃうので、3年後と決まっているのなら、こうなっていますと書かなくちゃあかんのですよ。こうなっています。3年後はこうなっています。この姿ですというふうには書き切れるかどうか。

こう書くのは怖い。なっているか、なっていないかがすぐ結果が分かるからね。でも、計画、それ、立ててなかったら評価もできないので、こういう姿になっているのをおちゃんと示して、3年後どうでしたかと、この3年間何やりましたかというふうに言えれば良いというのは分かりやすい話だと思います。ビジョンというのはそうしないと、住民の皆さんが、これやりたいよねと、こういうことなんだねというのはなかなか伝わらないと思うので、それはちょっと順番と表現は考えれば良いと思います。内容は本当にポジティブに実は書いてあるので、結構いいなと思っているんですね。

もう1つ、何ていうか、最後というか、いろいろ言いたいことはあるんですけど、その

あたりでいうと、この書き方の中でもうちょっと工夫をすればもっとよくなるどころが幾つかありますので、そのあたりの工夫をどこまでするかはちょっと検討していただいたほうがいいかなというのは思いました。

例えば表現なんですけど、非常に単純な表現、これは今回じゃなくて、実は前回のところの課題を引き継いでいるので、例えば基本目標1と書いてあって、その後、例えば20ページのところだと、基本目標1があって、その下に「①自分と地域を重ねて、しあわせを考えられる住吉区に」と書いてあって、そのほかのやつも非常に文学的に書いてあるんですけど、要は何を言っているのかがやっぱり伝わらないんですよ。ここ、何の課題なのというのが恐らく伝わらなくて。例えば、①はよく読んでみれば、もうちょっとこの内容を考えてみるとどういうことかということになると、例えば地域活動への参加のことを言っているみたいだね。だから、要は例えば①のことは例えば地域活動への参加、②番はつながりの場、集まりの場、③番が支え合い、④番が情報発信なんですよ。

基本目標2のほうは、こちらのほうも非常に文学的に書いてあるんですけども、①のほうは「すべての人が自分の意思を言える、それが大切にされる住吉区に」。目標としてはすごくいいんですけど、何を言いたいかということ、相談できる環境をつくりましょうということを行っているんです。相談できる環境、②のほうは相談につなぐ、③番がフォーマル・インフォーマルの支援、④番が、これ、いわゆるサポートのほうの連携・協働という話をしているので、何かこれ、もうちょっと読んだ人が分かる表現にしたほうがむしろいいんじゃないのかなという。かなり文学的になっているので。

今回、資料を作る上でも、何だろう、さっき「一言で言うと」と言ってくれたのは、言い直さないとなかなか伝わらないからという形だったと思うので。これは今回のじゃないです。前回、私たちがつくったときの課題の引継ぎなので、むしろそのあたりは読んだ人が分かる形を改めて修正することができるんじゃないのかなというのは思いましたということ。

すみません、何点か言わせてもらいましたが、そこまでにしときます、委員長。

【宮川委員長】 ありがとうございます。

この分学的な表現というのは、私たちも見ていて、ぱっと見、分かりにくいなというところはやっぱりありましたので。その部分というのは、先ほど「一言で言うと」と津村さん言っていたいたんですけど、本当に分かりにくいので、ちょっとそういう表現とこのをしていただいたというところだと思います。これをまたちょっと分かりやすい形

で変えていただけたらなというふうに思います。変えていこうというふうに思っています。

ありがとうございました。

本日は、スムーズな会議の進行にご協力いただきましてありがとうございます。

本日も議論いただいた内容について事務局で取りまとめていただき、区政会議のほうへ報告を行っていただきます。

それでは、以降の進行につきまして事務局にお返ししたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

【南福祉課長代理】 宮川委員長、長時間の進行ありがとうございました。

それでは、委員の皆さんからのご意見や小野先生からのお話を踏まえ、橘区長からご挨拶申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

【橘区長】 本当にすみません。時間をオーバーしておりますので手短にというか、端的にコメントといいますか、感想を述べさせていただければと思っております。

本当に今日も委員の皆様から数多くの貴重なご意見賜り、本当にありがとうございました。報告案件のほうでは、小野先生のほうからアンケート調査のほうでクロス集計というのが出ましたけど、まさにちょっとそこは気になっていたところでございます。人数的にも130人、それほど多いわけではないんですけど、そういうところ辺もちょっと踏み込んで確認してみたいと思いますし、その結果については、またこの会議で報告もさせていただければというふうに思っております。

それからあと、地域座談会などの地域のイベントのお話、もっと区民に周知すれば、情報発信すればというようなお話も小野先生からも頂戴しております。確かに住吉区の広報紙でありますとかSNSを通じた形で発信している場面というのはございますけれども、やはりもっと實宗委員がおっしゃっていただいた担い手不足の点、そういったところ辺も含めて発信すべきなのかなと思ったりもしています。

その担い手不足のほうについては、もうこれまで区政会議のほうでも僕も度々お話しさせていただいておりますけれども、あくまで福祉の活動をしていただいている方々のみならず、町会の役員、PTAの役員さん、いろんな方々がやはりボランティアで携わっていただいている方々、特になんですけども、やはり担い手不足という声が上がってまいります。

そういったときに、僕も区長3年目でありますけれども、本当に地域、イベントにお邪

魔したときにいろいろお世話いただいている方々の活動ぶりを見ていますと、表情はやはりすごく生き生きされている方がたくさんいらっしゃるなというふうに正直思ってきました。やりがいであったり、あるいはそういう活動ぶりというのも積極的に行政として発信できるところは発信して、そして、少しでも何かそういうところに気を留めていただいて、私もやろうという方々が一人でも多く携わっていただけるなら、本当に地道なことではあるんですけども、行政としてもそういうところ辺も注力していきたいというふうに思っています。

それからあと、数々の委員の方々からご意見を頂戴いたしました。このビジョンに関してという貴重なご意見も多々ございました。そういった面、そして、小野先生最後に取りまとめてこうしたらどうというようなところ辺もご意見いただいたところです。次回にはそういうところ辺しっかりと、今日いただいたご意見を基に修正すべきところをしっかりと修正もさせていただきながら、改めてまた確認いただければと思っています。

やはりなかなかこのビジョンで言うのは、どうしてもビジョンですのでふわっと書いております。小野先生おっしゃっていただいた3年後にはこういうことになりますというのは、行政としてなかなか正直打ち出せないところもございます。ただ、めざす姿としては出せるのかな。イコールをめざしますではあるのかもわかりませんが、そういうところ辺の表現についても再度ちょっと改めといいますか、こちらで考えていきたいというふうにも思っています。

また、冒頭申しあげましたように、このビジョンに基づいた具体的な取り組みについては、アクションプランとして整理をいたします。その素案も次回出させていただくことになるんですが、やはりそういうところ辺も見ていただくほうが、よりイメージといいますか、ビジョンとその具体的な取り組みがこうつながっているんだなという、そういったところもお示しもしながら、またご意見をいただければというふうに思います。

本日、長時間になってしまい、本当に申し訳ありませんでした。引き続き、また委員の皆様からご意見を賜りたいと思いますので、次回もどうぞよろしく願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

【南福祉課長代理】 ありがとうございました。

最後に、これからの地域福祉専門会議の予定をお伝えさせていただきます。

次第にも記載しておりますとおり、第2回を10月22日に、第3回を令和9年2月18日に、いずれも木曜日の午後6時から当会場で予定しておりますので、よろしく願いいたします。

す。

本日は、長時間にわたり誠にありがとうございました。

以上で地域福祉専門会議を終了させていただきます。どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

— 了 —